教　育

「人と自然の調和・共生」を大切に、４つの力を育成

三重大学は、学術文化の発信・受信拠点として「人と自然の調和・共生」を大切にしながら、地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出すことを目指しています。そのために、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、そしてそれらを総合した「生きる力」がみなぎり、地域に根ざし、国際的にも活躍できる人材の育成を目標にしています。この目標を達成するための全学的組織として地域人材教育開発機構が設置されており、その協力の下、教養教育院や各学部においてそれぞれの特色を生かした教育プログラムが展開されています。

地域人材育成推進会議

本学にとってのアドバイザリーボードとして機能する会議であり、本学のステークホルダーから人材育成に向けた教育に対しての助言や提言を得るために設置されています。助言や提言は、各学部・研究科における改革や地域人材教育開発機構による教育改善・教育開発に反映されます。

地域人材教育開発機構

地域人材教育開発機構は、アクティブラーニング・教育開発部門、教学IR・教育評価開発部門、eラーニング・教材開発部門、大学図書館・学習支援部門、グローバル人材教育開発部門、地域創発部門、インターンシップ・キャリア教育開発部門、エンロールメント・マネジメント部門の８つの部門で構成し、全学と一体になって、三重大学の教育目標の達成に向けた教学改革や教育の質保証を推進し、入学から卒業・就職まで一貫した学士課程教育をデザインします。

学生総合支援センター

「三重大学学生支援方針」に従って、学生たちの中に眠る宝を発見し、その宝が輝く姿を思い描き、夢実現のステップをデザインし、宝が輝くための支援をします。「学生生活支援室」、「障がい学生支援室」、「学生なんでも相談室」、「キャリア支援センター」では、専門的な技能をもった教職員たちによって支援活動が行われています。

教育目標

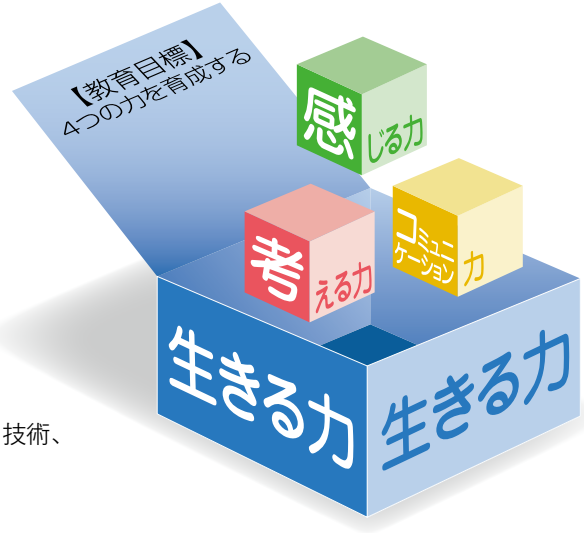
幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、地域のイノベーションを推進できる人材を育成するために、「４つの力」、すなわち「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを総合した「生きる力」を養成します。

■「感じる力」

感性、共感、主体性

■「生きる力」

問題発見・解決力、心身の健康に対する意識、社会人としての態度・倫理観



■「考える力」

幅広い教養、専門知識・技術、論理的・批判的思考力

■「コミュニケーション力」

表現力（発表・討論・対話）、リーダーシップ・フォロワーシップ、実践外国語力

↑ 教養教育院

↑ 各学部・研究科

↑ 地域人材教育開発機構

↑ 学生総合支援センター
- 学生生活支援室
- 障がい学生支援室
- 学生なんでも相談室
- キャリア支援センター

↑ 保健管理センター

↑ 附属図書館

↑ 総合情報処理センター

アクティブ・ラーニング	**スタートアップセミナー** 入学したばかりの学生を対象に教養教育で開講される全学必修の授業です。この授業では三重大学の教育目標である「4つの力」に基づき、能動的学修態度を養います。グループごとに討論を重ね、問題発見からその解決まで行い、最後にプレゼンテーションを行います。コミュニケーション力の中では特に「聞く」「話す」に重点が置かれます。全国でも注目され、高い評価を受けています。
	教養ワークショップ 1年次後期に教養教育で開講される全学必修の少人数授業です。新書（論説文）を読み、グループでその内容を討論し、各自が書評にまとめ、さらに、書いた書評を互いに批評するという「読む」「書く」を中心とした授業です。自律的・能動的学修力をつけるためのこれまでに例のない新しい授業です。
グローバル人材育成	**TOEIC等の活用によるコミュニケーション力向上** 教養教育では、TOEIC IPテストを入学直後に行って習熟度別クラスで英語の授業を実施しています。英語の単位修得のためにはTOEIC IPテストで一定のスコアをとることが条件となっています。また、ドイツ語、フランス語、中国語の検定試験も単位認定や成績に反映されるようになっています。さらに、教養教育科目、専門教育科目で英語による授業を実施しています。
	英語特別プログラム 入学時TOEIC IPテストで優秀な成績を修めた学生は教養教育の英語特別プログラムに参加することができます。世界で活躍できる人材となることを目指して高度な英語の授業を受けるとともに、スタートアップセミナーや教養ワークショップに加えて教養統合科目の一部も英語で受講します。仕上げとしてイギリスへの海外研修に参加します。
キャリア教育	**キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム** キャリア力形成のための初級・上級資格（学内資格）取得を促し、就職に向けて広い実践力を身につけるよう取り組んでいます。プログラムを修了した学生は、ピアサポーターとして学生のキャリア教育を支援する活動を行います。
PBL教育	少人数の課題探求型学習形態であるPBLを全学的に展開し、教養教育科目及び各学部での専門科目において活用しています。この教育方法では、グループで能動的に課題の解決に取り組むことにより、コミュニケーション能力が高まり、深く本質的な理解に到達することができます。
eラーニング	本学の教育に合わせたMoodleやeポートフォリオなどの授業支援システムや、TOEICオンライン学習システムなどを導入し、総合情報処理センターの協力のもと、eラーニングを活用した能動的な学習の促進を行っています。Moodleでは、授業時間外における教員・学生間のディスカッションや課題の提出を行うことができ、eポートフォリオでは学生自身が日々学んだことを記録したり省察したりすることができます。
JABEE（日本技術者教育認定機構）認定の教育プログラム	日本技術者教育認定機構（JABEE）は、専門技術者を育成する教育課程が国際社会の要求水準を満たしていることを認定する公的機関です。本学では現在、生物資源学部（共生環境学科地域環境デザイン学教育コース農業土木学プログラム）の教育プログラムが同機構から認定を受けています。工学部（電気電子工学科、建築学科）、および生物資源学部（生物圏生命科学科）も過去に受審申請して認定を受けた経歴があるなど、本学の技術者教育は国際的に通用する水準で行われています。
社会貢献	**高校との教育連携事業の推進（高大連携）** 三重大学では、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業及びスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業の推進に貢献しています。また、高校との教育連携推進のための交流会、推進会を継続的に開催し、高校生を対象とした公開授業（東紀州講座）及びサマーセミナーを開講するとともに、単位認定も行う高大連携授業を実施しています。このほか、本学教員による高校への「出前授業」も行っており、平成30年度は約75回、延べ2,700人の高校生に講義を行いました。
	教員免許状更新講習 教員免許の更新のために義務づけられている「教員免許状更新講習」を文部科学省の認定のもとに開催しています。平成30年度は185講座を開講し、延べ約4,800人が受講されました。
	市民向け公開講座など （P44参照） 教養教育院や各学部が主催して市民向け公開講座を開講したり、「みえアカデミックセミナー（三重県生涯学習センター）」等に本学教員が出講しています。また三重大学で開講している授業のうちの約50科目は「市民開放授業」としており、例年約50名が受講されています。

多様で独創的な研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大学は、多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させると共に、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を社会に積極的に還元します。

地域の課題を探求するならば、それが狭い研究分野の枠に収まり切るなどということは決してなく、本学の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、また自然へ、歴史へ、文化へと連なっていく。これこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり契機となります。

三重大学は、各種学問の横断的総合体として、地域との強い絆を持ち続けます。

研究に関する目標

1．研究水準及び研究の成果
　研究者の自由な発想に基づく基礎研究を発展させ、それぞれの学術分野や学際領域における特色ある研究を推進し、本学を代表する領域においては、世界水準の研究を推進する。

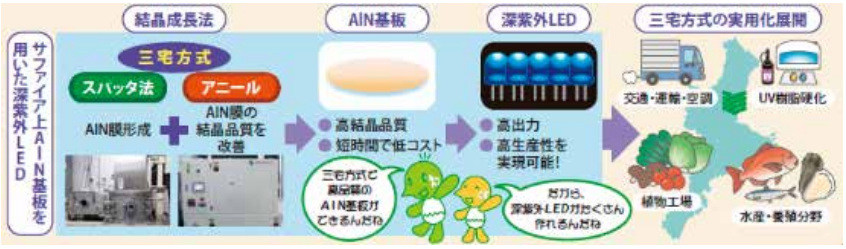
2．研究成果の教育への反映及び社会への還元
　研究成果を教育に反映させ、社会に還元するために、地域自治体や産業界との産学官連携活動等を推進する。

● 研究による地域イノベーションの推進 ●

1．リサーチセンター

三重大学では、研究の最終ターゲットを共有する様々な分野の研究者が横断的に研究グループを作り、新たな視点を持った研究や新技術の創生を目指す事を目的とした“三重大学リサーチセンター”を設置しています。一覧はP46を参照。

重点的に支援するリサーチセンター
（1）卓越型リサーチセンター
（2）若手リサーチセンター



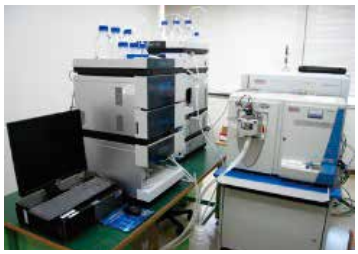
卓越型リサーチセンターの一例（特異構造の結晶科学リサーチセンター）

2．若手研究者の支援

若手研究者（39歳以下）による研究と異分野（複数の学部・研究科、学科）の連携研究及び国際共同研究を強化するために、海外で開催される学術研究集会の旅費支給、研究資金及び研究スペースの提供を行っています。

3．共同研究機器の整備

三重大学における設備整備に関するマスタープランを作成し、それに基づき計画的に設備を整備しています。


高速液体クロマトグラフ質量分析装置

試料水平型多目的X線回折測定装置

4．地域拠点サテライトに関連する研究センター・学舎等

地域の特色ある教育研究を産学官連携で推進する研究の拠点として設置しています。
（1）伊賀サテライト（国際忍者研究センター、伊賀研究拠点）
（2）東紀州サテライト（東紀州教育学舎、東紀州産業振興学舎）
（3）伊勢志摩サテライト（海女研究センター）
（4）北勢サテライト（知的イノベーション研究センター）

5．連携大学院

学術および科学技術の発展に寄与するために、連携大学院の協定を個別に締結しています。
農研機構野菜花き研究部門、増養殖研究所、森林総合研究所関西支所、太陽化学、医薬基盤研究所、成育医療研究センター、三重中央医療センター、三重病院等

社会連携・地域貢献

教育と研究を通して地域と連携

三重大学は、教育と研究を通じて地域づくりや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進します。地域に根ざした知の支援活動と、産学官民連携の強化と推進を図ります。

社会連携

三重大学では、自由で独創的な知の創造という大学の教育・研究の特性に根ざした、産・学・官・民の連携交流の拠点を整備することにより、社会的に貢献し得る新たな知を科学と技術の両面にわたって創造することが、大学の活性化と社会への寄与に極めて重要な意義を持つものと考え、社会連携活動を活発に取り組んでいます。

一方、青少年や一般社会人向けの啓発関連事業として、青少年のための科学の祭典、Jr.ロボコンなど、また、社会人等を対象としたみえ防災塾、専門職防災研修、MOT（技術経営）講座などによる実践教育を行っています。

平成21年度からは、独立大学院「地域イノベーション学研究科」を設置し、共同研究を通じた実践的人材育成を行い、地域産業界の核となる人材の輩出を目指しています。

また、平成23年4月に「地域戦略センター（現：地域創生戦略企画室）」を設置し、地方自治体との連携によって、地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言等を行う活動を開始したほか、平成25年4月からは、地域圏防災・減災研究センターを設置し、三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究、教育、社会連携の推進及び災害医療への寄与にも取り組んでいます。

地方自治体との連携・協力協定

三重大学では、三重県の地域創生戦略の一つとして、県内全ての自治体（29市町）との協定締結とプロジェクトの実施を目指して取り組んでおり、協定締結については、平成28年度に県内全市町との協定締結を実現しました。今後は、三重県はもとより既に協定を締結している県内各市町とも、それぞれの協定に基づいて、地域創生の実践に関する諸課題への的確な対応や、三重大学における教育研究、各市町における地域振興に資するプロジェクトについては、オール三重大学のもと、より厚い連携・協力によって責任を持って実施していきます。

地域貢献型研究

三重県、伊勢湾、紀伊半島等の地域の諸問題をテーマにした様々な学際的研究を推進するとともに、地域に向けた各種シンポジウム、フォーラム等を開催しています。

また、地域貢献活動の創造及び推進を目的に、本学の教職員を代表者とする教育・研究に基づく自主的な活動を「三重大学地域貢献活動支援事業」として助成支援し、全学で地域貢献活動に取り組んでいます。

第1回地域防災研究会「市町タイムラインの策定支援」の様子

「地方自治体における防災・減災に関する地域課題解決のための活動支援」
工学研究科・地域イノベーション推進機構地域圏防災・減災研究センター　准教授　川口　淳

木育ゲームの説明の様子

「東紀州サテライトを拠点とした熊野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施」
地域拠点サテライト　山本 康介

共同研究

民間等との共同研究や受託研究に加えて、学部・研究科を超えた学際的共同研究、国内大学間共同研究、国際的な共同研究など三重大学の研究の特色を生かした幅広い共同研究が行われています。特に地方公共団体や地域企業との共同研究は活発に行われ、地域中小企業との共同研究においては全国上位の実績を挙げており、地域の発展に大きく貢献しています。地域イノベーション推進機構、㈱三重ティーエルオーが、各部局と連携して、大学の持つ研究シーズと民間企業等のニーズのマッチングによる共同研究を推進しています。

知的財産創出

三重大学独自の知的財産の拡大を図ることを目的として知的財産統括室を設置し、知的財産の創出から特許等の出願、管理、活用までの業務を一元的に推進しています。権利化された知的財産は、㈱三重ティーエルオーとも連携しながら民間企業等への技術移転を図っています。また、知的財産に関わる啓発、学生教育の他、Mip（Mie intellecutual property）特許塾を通しての県内の知的財産中核人材の育成を行っています。

全学シーズ集の提供・公開

三重大学の知的財産（研究成果）を活用して、地域産業との共同研究の活性化を図り、地域との社会連携を推進するため、三重大学教員約700人の研究シーズを、学外者に向けて分かりやすく解説するとともに、教員の研究への熱い思いもこめた「三重大学全学シーズ集」を本学ホームページで公開しているほか、CD-ROMも配布しています。（http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/）

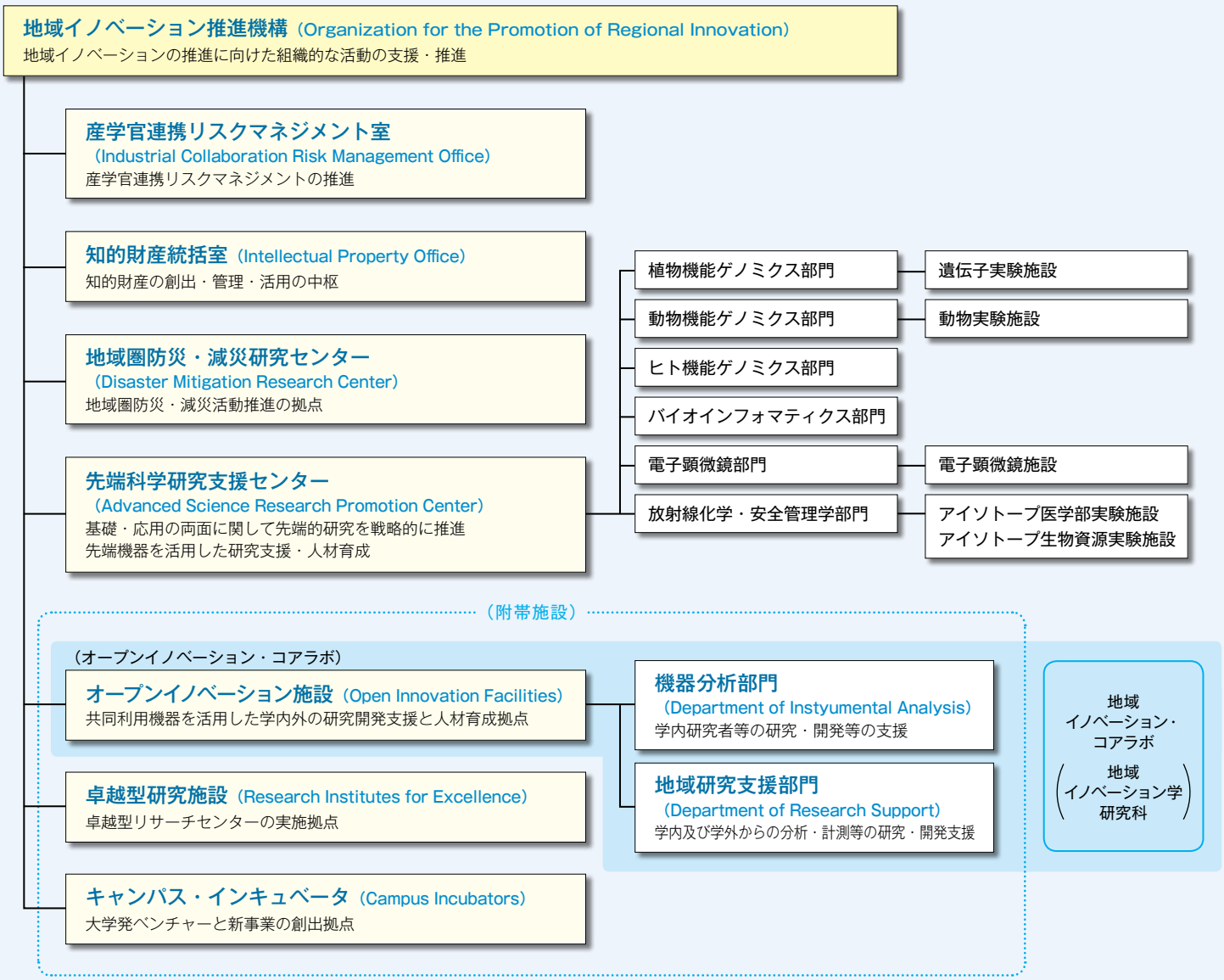
推進体制

■地域イノベーション推進機構

地域イノベーション推進機構は、生命科学研究支援センターと社会連携研究センターを発展的に統合し、平成28年11月1日に発足した組織です。

地域イノベーション推進機構は、産学官連携の推進に伴い生じるリスク管理に取り組む「産学官連携リスクマネジメント室」、三重大学発となる知的財産の創出・管理・活用に取り組む「知的財産統括室」、地域の防災・減災活動を支援・推進する「地域圏防災・減災センター」、イノベーションの素となる先端科学研究を支援・推進する「先端科学研究支援センター」、共同利用機器を活用した学内外の研究開発支援・人材育成に取り組む「オープンイノベーション施設」、本学が認定する卓越型リサーチセンターの実施拠点となる「卓越型研究施設」、大学発ベンチャーと新事業の創出拠点となる「キャンパス・インキュベータ」を整備しています。

これらの体制を基に、学内の研究者のみならず、地域の方々からの技術相談や研究開発に関する様々なご要望に対して、学内外の研究者の交流を深めつつ、地域イノベーションの推進に向けた三重大学独自の活動を展開しています。



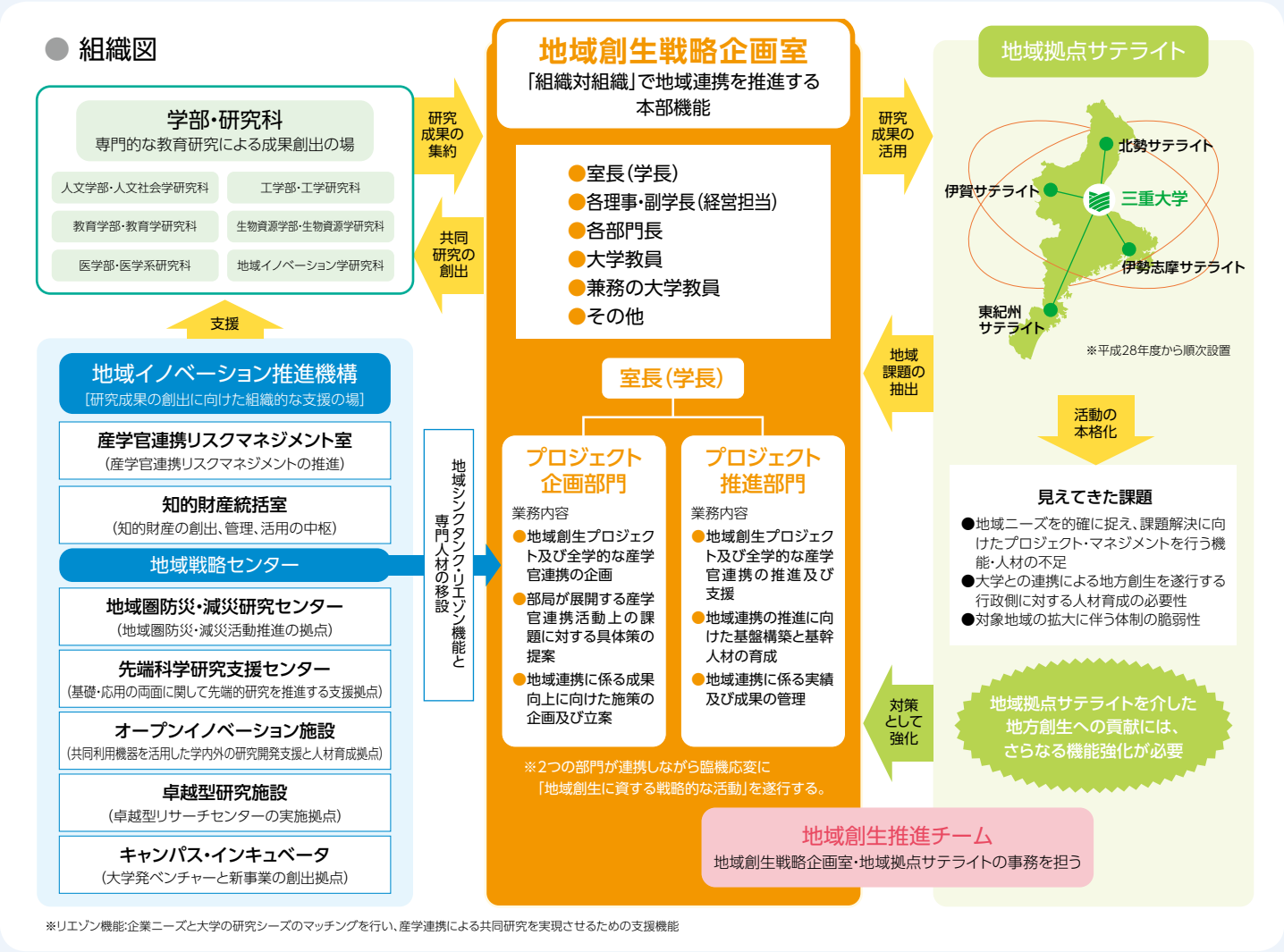
■地域創生戦略企画室

地域貢献型大学を掲げる三重大学は、教育力・研究力の強化と深化を図るとともに、教育研究成果を積極的に社会に還元し、地域創生に寄与することを重要な使命と位置付けています。この使命を具現化するため、平成30年4月、本学の本部機能として「地域創生戦略企画室」を設置しました。

この地域創生戦略企画室は学長がトップとなり、地域創生に向けた強いリーダーシップの下、本学が地域の企業や自治体等との組織対組織による戦略的なプロジェクト（地域創生プロジェクト）を企画・展開することで、本学における教育・研究の深化に寄与します。さらに、この地域創生プロジェクトに学内の教職員・学生、あるいは地域の企業や行政職員が参画することで、地域共創を牽引する基幹人材の育成を目指します。

地域創生戦略企画室の主な業務は「プロジェクトマネジメント機能・体制の強化」「基幹人材の育成・蓄積」「地域創生に資する本部機能の整備」です。どの学部にも属さず、学長・理事を構成員に含めることで、経営責任に基づく判断の下での、フレキシブルな運営を実現します。また、「プロジェクト企画部門」、「プロジェクト推進部門」の2つの機能・部門を持ち、それぞれ社会連携担当副学長、地域創生担当副学長が部門長を務めます。

企画部門は地域創生プロジェクトの起案、具現化、組み上げを担当し、推進部門は各部局・機構と連携し、プロジェクト遂行を支援、あるいはプロジェクトの企画・構築・実施を活用した学内外への基幹人材の育成を担当しています。この両部門が、ステークホルダーからの意見・要望、地域拠点サテライトにおいて抽出した地域課題などから、地域の企業や事業者、行政機関や各種団体等と連携した地域創生プロジェクトを組み上げ、各学部・研究科や各サテライト等からなる全学横断的なチームアップにより「地域創生に資する戦略的な活動」の実現・実行を推進します。



■地域拠点サテライト

平成28年度から順次設置している「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大学の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト）を展開しています。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力をもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っています。

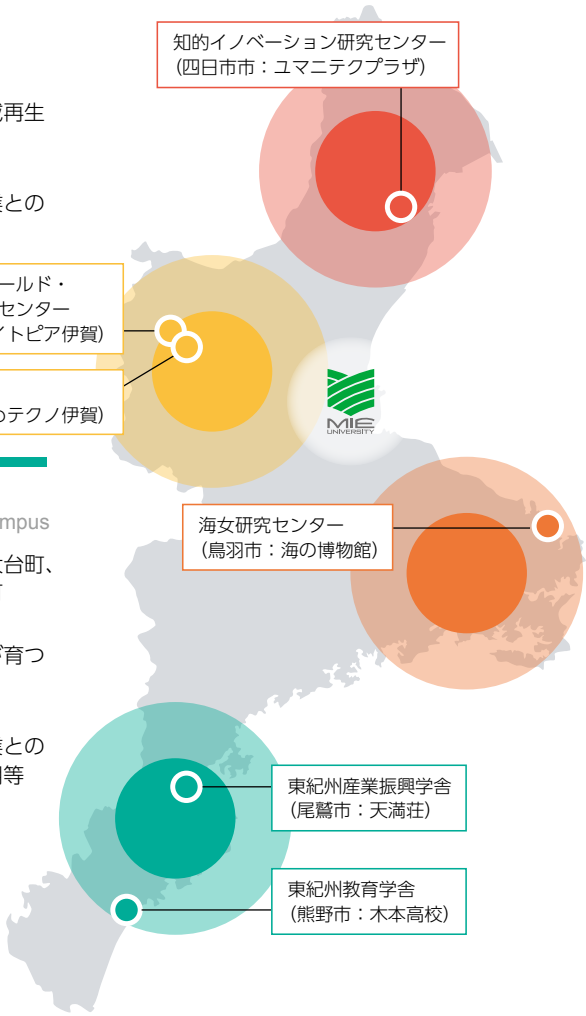
また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。

伊賀サテライト
Iga Regional Satellite Campus

●担当エリア：名張市、伊賀市
●伊賀サテライトの目標（旗）：
固有文化と地域資源の活用で地域再生に寄与する拠点
●具体的活動内容：
忍者等の歴史・文化、医薬品企業との連携、森林資源の活用等

北勢サテライト
Hokusei Regional Satellite Campus

●担当エリア：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
●北勢サテライトの目標（旗）：
日本のモノづくりの真髄を体感し富を生み出す拠点
●具体的活動内容：
自動車、石油化学、食品化学企業等との産学連携事業、企業人材のリカレント教育、モノづくり企業との連携による学生・若手教員の育成等



東紀州サテライト
Higashi-Kishu Regional Satellite Campus

●担当エリア：尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、御浜町、紀宝町
●東紀州サテライトの目標（旗）：
地域資源で富を生み力強い子供が育つことを支える拠点
●具体的活動内容：
へき地教育、水産増養殖・加工業との連携、森林資源や観光資源の活用等

伊勢志摩サテライト
Ise-Shima Regional Satellite Campus

●担当エリア：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
●伊勢志摩サテライトの目標（旗）：
歴史ある自然との共生・共存の思想を世界に発信する拠点
●具体的活動内容：
食と観光産業による地域創生の研究（歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の６次産業化、観光資源の活用など）、地域人材の育成等

■自然環境リテラシー学（東紀州サテライト）

現地実習を通して、自然環境を体験的・実感的に学び、その知識や技能の習得や、持続的な保護や責任のある行動をとれる倫理観、自然災害を生き抜く力などの養成を目的としています。

■健康福祉システム開発研究会（北勢サテライト）

行政人材や企業人材と意見交換をしながら、福祉分野における課題抽出から社会実装までの一連の流れについて研究し、持続可能なシステム開発を目指します。

国際交流

＝ From MIE to the World ＝
To form global human resources rooted in the community

国際ジョイントセミナー＆シンポジウム

2018Tri-U 国際ジョイントセミナー＆シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学が1994年から交代でホスト校をつとめ毎年開催している国際交流を兼ねた英語による研究発表会です。2011年度よりボゴール農科大学（インドネシア）もホスト校として参加しています。2018年度には廣西大学（中国）が新たなホスト校として加わることが決定し、現在は5大学がホスト校をつとめ、例年アジアの10数大学から120名の学生･教職員が参加しています。

2018年度は、チェンマイ大学で開催され、「人口」、「食料」、「エネルギー」、「環境」をテーマに持続可能社会の実現を目的とした研究発表やワークショップが行われました。2019年度は、第26回大会が江蘇大学（中国）にて開催されます。

コンセクティブディグリープログラム（接続学位制度）

三重大学は天津師範大学との協定に基づき、2009年4月から受け入れてきたダブルディグリープログラムの後継としてコンセクティブディグリープログラム（接続学位制度）を2019年4月から実施しています。

このプログラムは、天津師範大学の国際教育交流学部の3年生の学生20名（従来のダブルディグリー制度の学生）を、1年間三重大学に留学した後帰国して卒業し、さらに優秀な学生については一般入試を受け、合格者は三重大学大学院に10月または翌年4月に進学するというプログラムです。

高い日本語レベルと国際感覚を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

① 高いレベルの日本語を習得
② 専門知識の習得
③ キャンパスの国際化

ダブルディグリープログラム（複数学位制度）

三重大学は海外の大学と学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を取得するダブルディグリープログラムを、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びパジャジャラン大学（インドネシア）との間にて実施しています。

国際感覚、広い視野と専門知識を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

① 双方の大学の学位を修得
② 異文化体験を通じて国際感覚を養う
③ 海外体験を通じて実践的な語学能力の向上
④ キャンパスの国際化を加速

国際キャリアアッププログラム

世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、以下の取り組みを行っています。

▶**海外短期研修：**マレーシア・タチ大学研修、トレンガヌ大学研修、カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学海外語学研修等を実施しています。

▶**サバイバル日本語講座：**日本での生活に困らないよう外国人留学生・外国人研究者を対象とした日本語講座を実施しています。

▶**フィールドスタディ：**海外の協定校を訪問し現地学生と交流することで、異文化体験や国際理解を深めています。（ベトナム・フィールドスタディ）

▶**様々な交流プログラム：**留学についての勉強会や留学生との交流会、イベントなどを通じて、コミュニケーション能力や異文化理解能力を高める機会を提供しています。

タチ大学研修

外国人研究者招へい

三重大学では、協定校を中心に外国人研究者の招へいを行っており、平成30年度には19名の外国人研究者を招へいしました。さらなる国際化教育や共同研究の促進を図るために、平成26年度からは、新たに大学独自の外国人教員短期招へいプログラムを開始しました。

教育・研究活動を通じた国際貢献

三重大学では「三重の力を世界へ」のモットーの下、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の発展に資する国際貢献事業にも積極的に取り組んでいます。これまで延べ132名の三重大学教員が国際協力機構（JICA）専門家として開発途上国に派遣されている他、アフガニスタン、アフリカ諸国、太洋州諸国からの留学生の受入事業や、フィジー共和国での離島開発支援、モザンビークでの技術支援等の国際協力プロジェクトを実施しています。

地域の国際化支援

外国人の比率が全国で4番目に高い三重県の国際化・国際交流を支援するため、教員や留学生等の教育機関への派遣等を通じて、国際理解教育授業、外国人向け日本語教育支援、留学生のホームステイ事業等の多文化交流プログラムを実施しています。

国際交流DAYS

留学生と日本人学生の国際交流行事として、様々なイベントを実施し、三重大学のさらなる国際化を図ることを目的としています。昨年度は、留学生を対象に書道体験、十二単衣装体験、和食文化を学ぶ料理イベント、スポーツ大会、ウェルカム・パーティーなど様々な行事が開催されました。また、日本人学生を対象にJICA三重デスク協力のもと国際協力セミナーおよび相談会、世界の民族衣装の展示を行いました。

海外の同窓会を通じた交流

三重大学へ留学した学生が帰国後、同窓会を作り各地で活躍しています。
定期的に交流会を開催し情報交換を行っています。

留学生への日本語・日本文化教育

留学生に対し、日本語・日本文化教育を行っています。個々のニーズと日本語能力に応じて初級から上級まで6つのコースの授業を受講することができます。また、平成21年度から地域の外国人も受講できるように日本語の授業の一部を市民開放授業として実施しています。

国際交流奨学制度

三重大学では学業成績が優秀な学生に対して、海外留学、本学が実施する国際交流事業への参加、海外協定校からの短期留学及びダブルディグリープログラムによる派遣など充実した三重大学国際交流特別奨学生制度（20名）を設けています。また、海外から優秀な大学院留学生を安定的に確保することを目的とした「三重大学私費外国人特待留学生制度」により12名を採用するなど、留学しやすい環境を整えています。そのほか、私費留学生がより良い環境で研究･学習に集中できるよう、「三重大学三重県民共済奨学金（6名採用）」をはじめとした民間からの奨学金も拡充しています。

留学生支援

国際交流事業の実施、留学生への生活支援、地域貢献活動への参加支援、日本語学習支援、日本での就職を希望する留学生に対する企業インターンシップや地域企業とのマッチングなどの就職支援、留学生研修旅行（年2回）など、様々な支援を行っています。

■国際交流センター（CIER：Center for International Education and Research）

国際交流センターは、本学の国際化の要となることを目指して留学生センターを改編し、学内共同教育研究施設として平成17年に設置されました。当センターでは地域人材教育開発機構グローバル人材教育開発部門と連携して、留学生への日本語教育をはじめインターンシップ、就職支援及び日本人学生への国際教育や、海外留学、語学研修等の支援を行っています。